

お盆(盂蘭盆会)

釈尊の弟子・目連尊者もくれんそんじやの母が仏法によって餓鬼道がきどうから救われたという故事に由来するとされる法要。日本では、先祖供養のための仏教行事という意識が強いが、浄土真宗では、故人を偲びながら、自らが仏法ちようもんを聴聞する機縁としてつとめられる。

仏さまを拝むって

天岸 浄圓

お盆は、仏さまやご先祖さまにお参りをして、心静かに仏さま、ご先祖さまのご恩に感謝する日とされています。このお盆を機会に仏さまのことを考えてみてはいかがでしょうか。

仏壇に向かって念珠を手に合掌して頭を下げる。私たちはこのようにして仏さまを拝んでいます。けれども、この姿は何を意味しているか考えたことがありますか。多分、手を合わせても何も考えていない方もいるのではないのでしょうか。

天岸 浄圓	1
仏さまを拝むって	1
佐原 多賀子	11
浄土真宗のお寺について考えてみました	11
小林 賢五	21
いっしょにおまいりしよう	21
武田 晋	31
「お盆」に思う	31

たしかに、仏さまに向かって合掌すれば、外見では拜んでいます。しかし、内面はどうでしょうか。格好は拜んでいても、心は仏さまに向かっていますか。実は、仏さまのことも、拜むということも、まったくわかっていないのではありませんか。だから、仏さまを拜むということをまじめに考えていただきたいのです。

●「私たちのちかい」の思い

二〇一八（平成三十）年十一月に本願寺（西本願寺）の大谷光淳ご門主は「私たちのちかい」と題されて、若い人や、これまで仏教や浄土真宗に親しみのなかった方がたに向けて、次のような言葉を示されました。

私^{わたし}たちのちかい

一、^{ひつじ}自分の殻^{から}に閉^とじこもることなく

穏^{おだ}やかな顔^{かお}と優^{やさ}しい言葉^{ことば}を大切^{たいせつ}にします

微笑^{ほほえ}み語り^{かた}かける仏^{ほとけ}さまのように

一、^{ひつじ}むさぼり、いかり、おろかさに流^{なが}されず

しなやかな心^{こころ}と振^まる舞^まいを心^{こころ}がけます

心^{こころ}安^{やす}らかな仏^{ほとけ}さまのよう^{よう}に

一、^{ひつじ}自分^{じぶん}だけを大事^{だいじ}にすることなく

人^{ひと}と喜^{よろこ}びや悲^{かな}しみを分^わかち合^あいます

慈^じ悲^ひに満^みちみちた仏^{ほとけ}さまのよう^{よう}に

「生かされていることに気づき
 日々ひびに精一杯せいいつぱいつとめます
 人びとの救いすくに尽くすほとけ仏さまのように

何度か読んでください。何か気づきませんか。私は仏教の専門用語が
 少ないことに気づきました。用いられているのは「仏さま」「慈悲」
 くらいです。さらに、驚くべきことに「阿弥陀仏あみだぶつ」「親鸞聖人しんらんしょうにん」「本願ほんがん」
 「浄土じやうど」「往生おうじやう」「念仏ねんぶつ」「信心しんじん」「自力じりき」「他力たりにき」などの、浄土真宗特有
 の言葉がまったく用いられていないのです。浄土真宗のご門主が真宗用
 語を使われないことに、深い意図が込められているのではと感じまし
 た。それは浄土真宗という枠にこだわらず、仏教、特に仏さまを、より

広く、正しく、身近に知ってほしいと
 思いを込められたからでしょう。

●「仏さま」言葉と内容

「仏さま」という言葉を知っていて
 も、形式的に拝んでいても、内容がと
 もなわなければ格好だけです。現代の
 日本宗教全体の大きな傾向です。しか
 し、それで止まっては宗教とはいえな
 いのです。

「私たちのちかい」では、四項目す

